



心がいっぱい
朝日町ボランティア
マスコット
ハートフルちゃん

ハートフル通信

誰もが笑顔で元気に暮らせる まちづくり(町社協の基本理念)

編集・発行
朝日町社会福祉協議会
富山県下新川郡朝日町泊418
tel.0765-83-0576
fax.0765-83-1589
http://www.town.asahi.toyama.jp/syakyou



車いすのまま乗ることができます。



新車を購入しました！
車いすで乗ることができる車が、
2台体制になります。

あなたも

運転ボランティアになりませんか？

「安全運転」を心がけています

岩城 紀男さん

運転ボランティアをして、12年になります。主に冬期入浴送迎サービスの運転ボランティアをしています。利用する方は「大きなお風呂に入って温まれるのでうれしい」と喜んでおられます。雪道でも安全第一で運転しています。

富山県は、1世帯当たりの自家用車保有台数が、全国第2位です。今後、高齢者は自家用車の運転や公共バス、タクシーなどの公共交通機関の利用だけでは、外出が難しい方が増えると思われます。車が運転できなくなっても困らずに移動や買い物ができる地域にするために、みなさんも一緒に考えませんか。 ※富山県：1世帯当たり1.712台保有
(データ提供：一般財団法人 自動車検査登録情報協会 H27年3月末現在)

朝日町社会福祉協議会の 外出支援サービスの現状

●冬期入浴送迎サービス

冬期間、生活に困窮している方で自宅にお風呂がない方(壊れている方)の入浴送迎サービスをしています。昨年は5日間実施し、7名の利用がありました。利用者からは「もっと多く送迎してもらえたらうれしい」という声がありますが、運転ボランティアが少なく対応できていないのが現状です。

●車いす移送車の貸し出し

介護保険制度の改正に伴い、今後、利用件数が増えると思われます。その対応として、共同募金の助成金で介護自動車を1台購入し、2台体制になりました。

参考：平成26年度 利用件数 81件

「困っている！」の声

- 街の中に住んでいても、長い距離を歩けないので買い物に行くのに困っている。限られた年金の中では、頻りにタクシーを利用できない。
- タクシーを利用しても、車を降りてから長い距離を歩くことができない。家族がいれば頼ることもできるかもしれないが、家族がないので困っている。

やがて心配…

平成25年度に実施した地域福祉懇談会で「生活上や地域での困りごと」の意見が1,113件ありました。そのうち「移動や買い物の困りごと」が115件あり、全体の10.3%を占める結果となりました。参加者の年齢は、60代～70代の方が多く「今は困っていないけれど、やがて車に乗れなくなったときの移動手段や買い物が心配だ」といった意見がありました。



運転ボランティアを 募集しています！

通院など外出に困っている方々のために
運転ボランティアとして活動してみませんか？
普段の生活の中で空いている時間に活動ができます。

バス
電車

乗合
タクシー

タクシー
介護タクシー

マイカー
送迎

ボランティア
による送迎

運賃が
安い

家まで
来てくれる

便利

家族の都合
がつけば

どれも利用が
難しい人は…

運転送迎を希望するすべての方のご意向に応えることができない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

外出手段を守ることは、町民の命と生活を守ること。
健康を維持し、自立した生活を送れるまちを維持します。

◆活動内容

社会福祉協議会が所有する福祉車両を運転し、利用者の自宅と病院等を送迎

◆活動時間

利用者から依頼を受けた後、相談します

◆資格等

普通免許を取得されている方で、3年以上の運転経験のある方
年齢は75歳まで

説明会

◆日時 平成28年2月8日(月) 午後1時30分～3時

◆会場 五差路周辺複合施設2階 第1研修室

◆内容 ●運転ボランティアの説明 ●車いすの操作方法

※説明会に参加できなくても、随時運転ボランティアの募集をしていますので、お気軽にお問い合わせください。

大会レポート

第9回
全国校区・小地域
福祉活動サミット
IN THE WILD
KUROBE

さらけだせ

11月26日(木)~27日(金)



全国各地から小地域の活動を支える1,000名が黒部に集いました。朝日町からも30名が参加し、地域の福祉活動について学びました。

このサミットは、小地域で行われている全国各地の取り組みを学び、話し合い、交流することを目的に開催されました。

※小地域福祉活動とは、一般的に“住民の顔が見える”日常生活圏域を基礎に行われる住民のさまざまな福祉活動の総称です。

100人100様、人それぞれ考え方が違うが、それを尊重(尊敬)し交流すれば、「日々和」「人に輪」が大きく広がる。100できる人も1できる人も大事です。

(ボランティアサポーター)

日頃から、地域福祉と活動(自治会も含め)に熱意をもって取り組んでいる方々の本音が聞けました。「うかうかしてられない」学びや気づきを地域へ還元し、また自分育ちに生かします。

(町職員)

参加者の声

地域の崩壊が進み、高齢化が進む我が国でも、「独りぼっちではない!」「させない」「なんとかしようよ」という方が、全国から1,000人以上集まったことに感動しました。

(日常生活自立支援事業 生活支援員)

少子高齢化よりも、地域の人とのつながりの切れた方、あるいはつながろうとしない一人世帯の増加が、より深刻な社会問題となりつつあるとの指摘は、都会のことだけでなく、この朝日町も同じではないでしょうか?その解決の糸口が「大いなるお節介」にあるのでは?と感じました。

(自治振興会関係者)



ボランティア募集

趣味や特技、資格を
ボランティアで活かしませんか?

- ♪ 看護師資格を持っている方
- ♪ 手芸ができる方
- ♪ レクリエーションが得意な方
- ♪ 演奏が得意な方
- ♪ 歌が得意な方
- ♪ 広報紙の編集が得意な方 など...



あなたの
★キラリ輝く人生を
応援します!

サロンでの血圧測定

全国の仲間との
出会いがもたらすもの

小地域福祉活動を担う住民や福祉専門職が、日頃の思いをさらけだし、新たな気づきと学びを得る貴重な機会だったのではないかと思います。

とりわけ、活動を継続する上での喜びや目標、悩みなどの様々な思いを分かち合える「仲間との出会い」は、一生の宝となったのではないのでしょうか。

この仲間の存在が、自分たちの地域における活動を、また一歩後押ししてくれる原動力になると思います。

サミットの参加者がそれぞれの居場所目指す、地域の十年後の姿...

未来を見通せない不確かな時代ゆえに、具体的なイメージもできず、漠然とした不安だけがよぎってしまいがちです。



けれども、そんな不安を吐き出す「場」を地域に設け、「どうしたら、より安心して暮らしていけるのか」「そのためには、どのような地域づくり・人づくりが必要なのか」を主体的に話し合う機会が何より大切なことなのではないでしょうか。きっと、その話し合いから小さな希望が芽生え、次世代につながる地域になることを信じています。

(朝日町社会福祉協議会 廣田)

編集後記

第9回全国校区・小地域福祉活動サミットに企画委員として携わり、「移動支援について考える分科会」の担当をしました。そこで、朝日町の現状について改めて考える機会となりました。朝日町ボランティアセンターは、運転ボランティアさんが少ないことが課題でした。ある方から、「本当に困っている人の声を住民に届けている?」と聞かれ、ハートフル通信のテーマとし、現状を伝えようと思いました。移動に困らず暮らせる町になるには、みなさんのお力が必要です。共に基盤づくりをしていきましょう。(秀永)



~収集ボランティア活動~
ご協力ありがとうございました。

- ◆ 株明文堂書店
- ◆ ショッピングセンターアスカ
- ◆ 森野 稔さん
- ◆ 稲荷 富貴さん

ほか、匿名の方々からもたくさんのご寄付をいただきました。